

学生会員の声

補強土壁となりたい自分

埼玉大学大学院理工学研究科 岡寄 進也

私は現在、埼玉大学大学院博士前期課程の1年生で、桑野二郎先生の下でジオグリッド補強土壁の研究を行っています。本学科に進学した理由は、社会インフラの性質上どのような社会になったとしても需要が無くならず、就職後に安定した仕事ができると思ったためでした。入学後、大学の授業を通して人々の生活におけるインフラストラクチャーの立場や重要性を学び、卒業後もこの業界に従事したいと考えるようになりました。そしてその中でもすべてのインフラの基礎を支える地盤工学に魅力を感じ、地盤・地圏グループを選択しました。

現在私はソイルネイルと組み合わせたジオグリッド補強土壁の耐震性について研究しています。

地震といえば、私たちの世代で最初に名前が挙がるのが2011年の東日本大震災です。当時私は小学6年生でしたが、テレビで放送されていた様々な地域での被害状況をみて、子供心ながら他人事ではないと思ったことを今でも覚えています。そして今後、東日本大震災と同程度かそれ以上の地震が想定されている中で、この研究は大変意義があるものであると考え選択しました。

実験では高さ約50cmの補強土壁模型を作成し、その模型に対して振動実験・傾斜実験を行うことで被災時の補強土壁の挙動を調査しています(図-1)。

もちろん実験なので補強土壁模型が崩壊するまで実験を行うのですが、崩壊する模型を見て、実際の現場であればこの数倍の補強土壁も崩れるということを実感し、それらのインフラストラクチャーの重要性とそれに携わる技術者の社会に対する役割や責任を感じています。そして、将来自分が技術に対し誠実で責任のある技術者になりたいと強く思うようになりました。

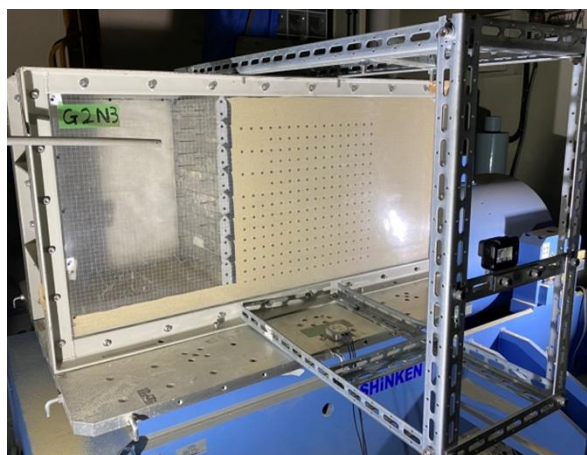


図-1 振動実験の様子

また、今回第36回ジオシンセティックスシンポジウムにて発表をさせていただきました。

発表の準備を通して自分の研究について理解を深めることができたことに加えて、私自身最も注意し、また成長できたと感じることは自分の研究を人に伝えることです。自分の理解していることを順序立てて他人にも理解できるように説明する、基本的なことですが今回の発表を通して改めて学ぶことができました。

今回学べたことは、今後の私の人生においても大きな意味を持つと考えております。目標とする自分になるためにも、今後研究活動に全力で取り組み、努力をし続けたいと考えております。